

第 39 回 旧 R D 最終処分場問題連絡協議会の開催結果

- 日 時 令和 3 年 11 月 26 日（金）19：00～20：52
- 場 所 栗東市総合福祉保健センター（なごやかセンター）集会室
- 主な質疑・ご意見

1 前回の開催結果の確認について

①調整池の底部沈殿物について、一時的な大雨が降ったときに攪拌されて流出するおそれがあるので調べてほしい、と言っているが、流出はほとんどないと考えられる、との回答である。溜まっているものが流れ出ても大丈夫か、という素朴な疑問であり、単純に調べたらどうかと前回意見を出したものである。調べておいたほうがいいのではないか。

⇒沈殿物是对策工事の最後に覆土した土が流出してできたもので、綺麗な土のため特に問題はないと考えています。覆土の状況については毎週目視をして確認しているが、例えば大きな洪水でその覆土が崩れた場合には必要な対応を行っていきます。なお、溜まっている土砂については一定溜まった段階で浚渫して処分する際に、その成分を調べて適正に処理します、と回答しました。

2 令和 3 年度第 2 回モニタリング調査結果について

②Ks2 層の電気伝導度について、No. 1 地点はグラフを見る限りは上昇傾向が続いているように見えるし、H24-2 地点は Ks3 層と比べると減り方が鈍い。気になるのは、旧処分場内で底面遮水をしたところ以外にも深掘りして Ks2 層まで達している廃棄物があった場合、悪い水が入ってきて綺麗にならないのではと思うが、その認識でよいか。

また、Ks2 層の電気伝導度がこのまま下がらなければ、もう一度旧処分場内の深掘穴についてしっかり調べる必要が出てくるのではないか。

⇒粘土層を貫通して掘削されていた部分については、綿密に調査してその範囲を確認するとともに、残存する廃棄物を撤去したうえで漏れがないように遮水工事を行っているが、万一、浸透水が下に漏れ出ている状況があった場合には、ご指摘のとおり旧処分場からの影響が下流へ及ぶことになるため、今後の調査によりそういった状況にないか確認していきます。

なお、どういった項目や手法で確認していくのかについては、工事完了後 5 年を目途に行う対策工の有効性の評価という形で、この協議会でまた協議させていただきたいと考えています、と回答しました。

③H26-S2 地点のひ素が 0.034mg/L と高い値になっているが、これも自然由来なのか説明をお願いします。

⇒地下水の流向としては、概ね H26-S2 地点から旧処分場内という状況になっており、電気伝導度も 20mS/m 台になっているため、浸透水の影響は受けておらず、自然由来と考えています、と回答しました。

3 維持管理の状況について

④水処理施設の地下には廃棄物が埋まっていることは確認されていると思うが、地盤の沈下により施設が傾いているといった異常はないか。

⇒維持管理業者に確認してもらっているが、特に異常はないという報告を受けています、と回答しました。

4 産廃特措法に基づく特定支障除去等事業実施計画で定めた目標達成の状況について

⑤資料 4 の目標 3 にある判断基準の 2 番目で、嫌気状態を解消するため浸透水が廃棄物土層に滞留しない状態が概ね保たれていること、と記載されているが、平成 10 年の深堀穴のところは浸透水が滞留しているのではないか。

⇒その点については、現在、アドバイザーのご意見をお聞きしながら資料を取りまとめているところであり、次回の連絡協議会で説明させていただく、と回答しました。

⑥ひ素について、No. 3-1 地点はコアの分析をされたが、他に基準超過している H26-S2 地点はコアの分析をされていないのでコアの分析をしてほしい。そうであれば浸透水の影響を受けていないという説明は納得できない。

⇒この地点では、地下水は旧処分場の外側から内側方向に流れているため浸透水の影響を受けていないと考えており、自然由来のひ素と考えているが、またコアの写真をお見せして説明させていただく、と回答しました。

H26-S2地点の状況について

令和4年(2022年)2月(書面開催)

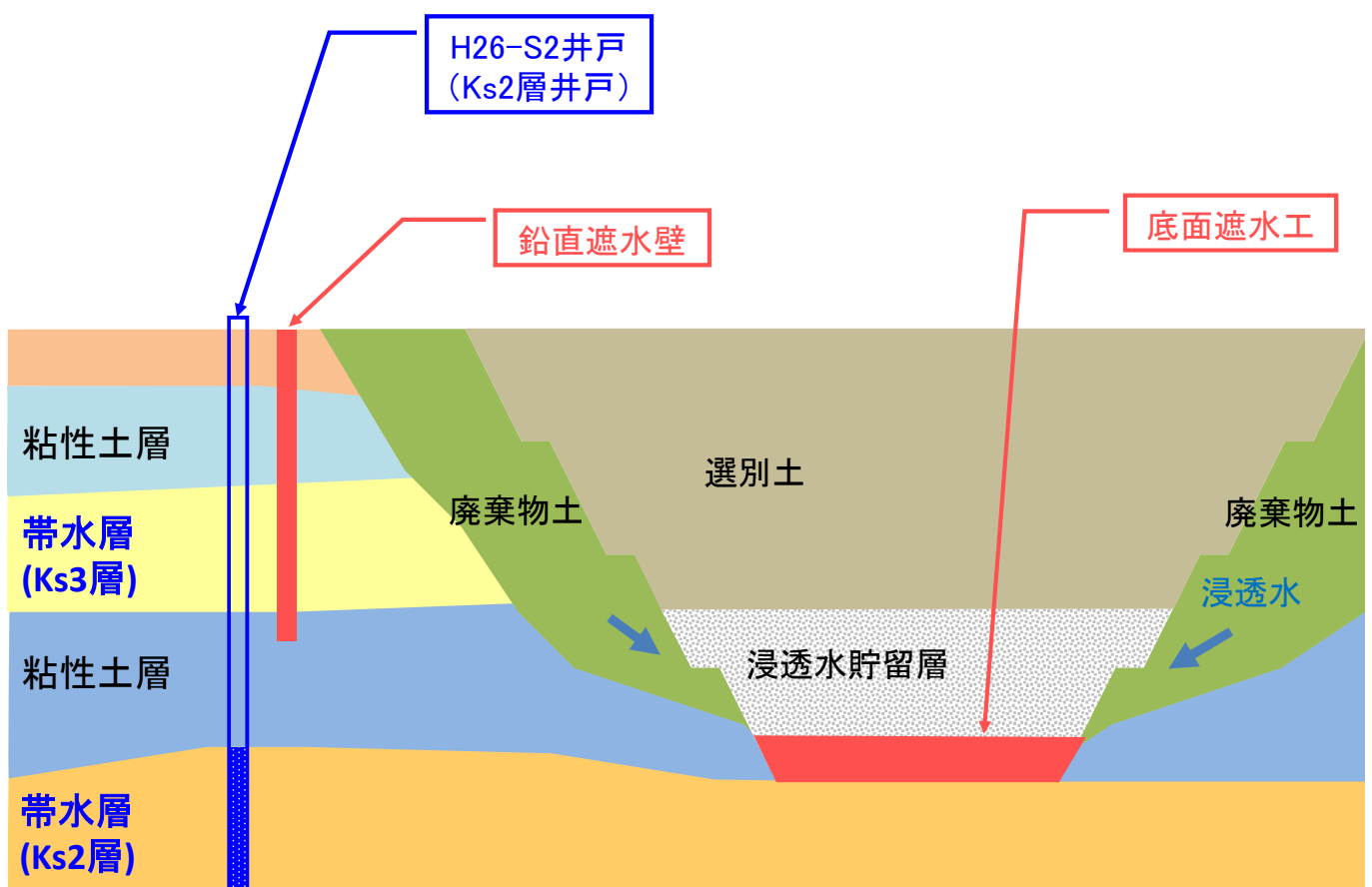
(資料1抜粋)

4 産廃特措法に基づく特定支障除去等事業実施計画で定めた目標達成の状況について

⑥ひ素について、No. 3-1地点はコアの分析をされたが、他に基準超過しているH26-S2地点はコアの分析をされていないのでコアの分析をしてほしい。そうでなければ浸透水の影響を受けていないという説明は納得できない。

⇒この地点では、地下水は旧処分場の外側から内側方向に流れているため浸透水の影響を受けていないと考えており、自然由来のひ素と考えているが、またコアの写真をお見せして説明させていただく、と回答しました。

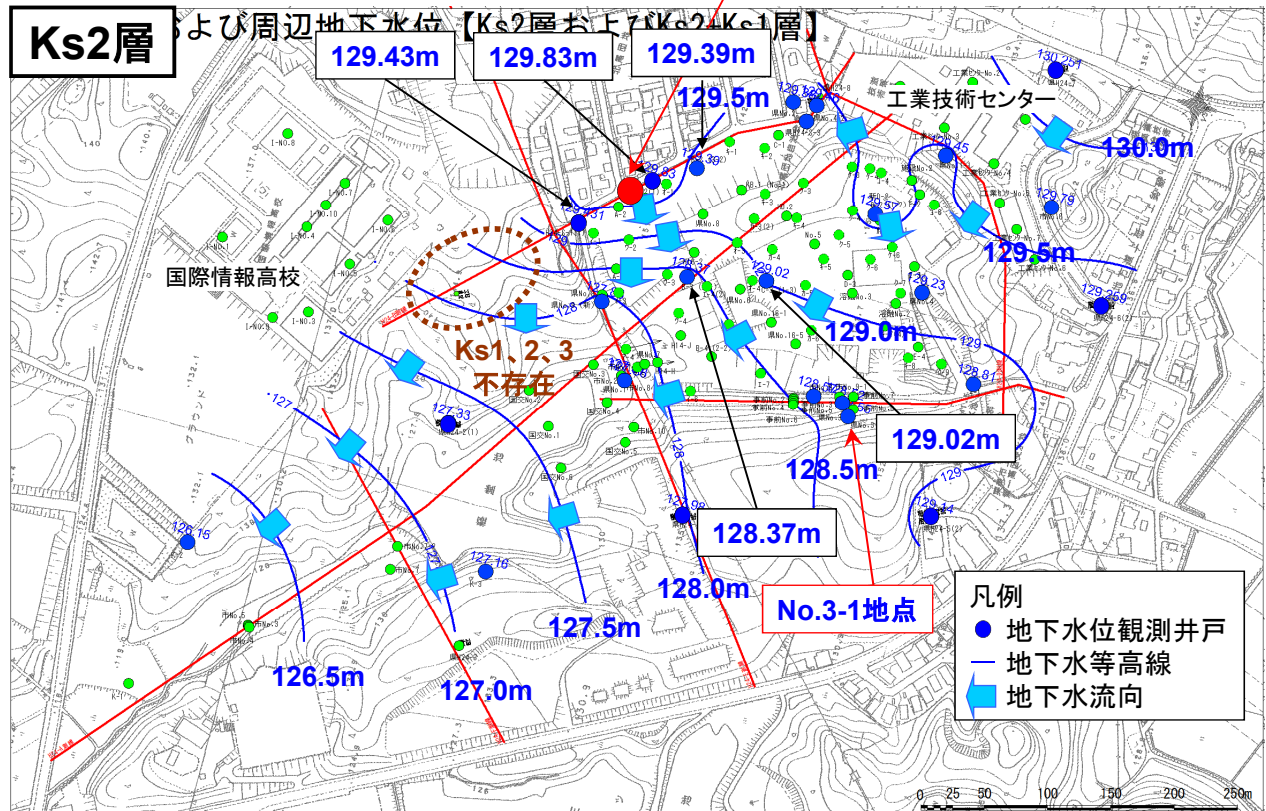
地下水帯水層の位置関係



地下水位観測結果に基づく地下水流向図

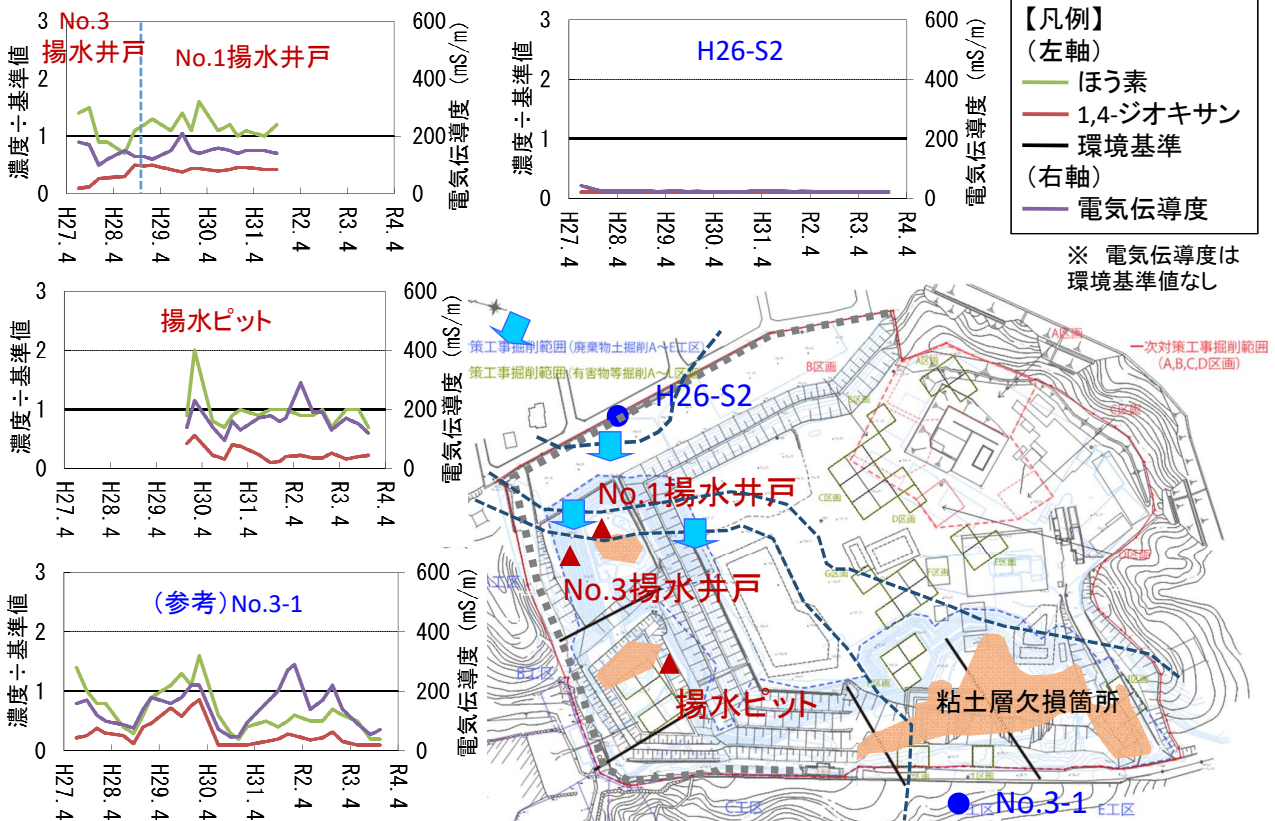
H26-S2地点

(H24.11.28)



■ 地下水位はH26-S2地点付近で高く、旧処分場側に向かって下がっているため、旧処分場側が下流側と考えられる。

地下水・浸透水分析結果



■ 浸透水で検出されているほう素、1,4-ジオキサンがH26-S2地点では不検出。
 ■ H26-S2地点の電気伝導度は浸透水を大きく下回っている。

ボーリングコアの色

No.3-1



H26-S2

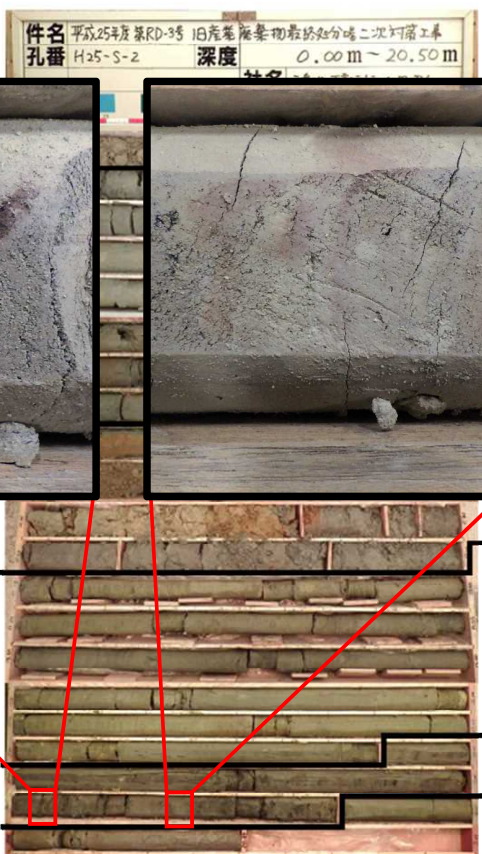


ボーリングコアの色

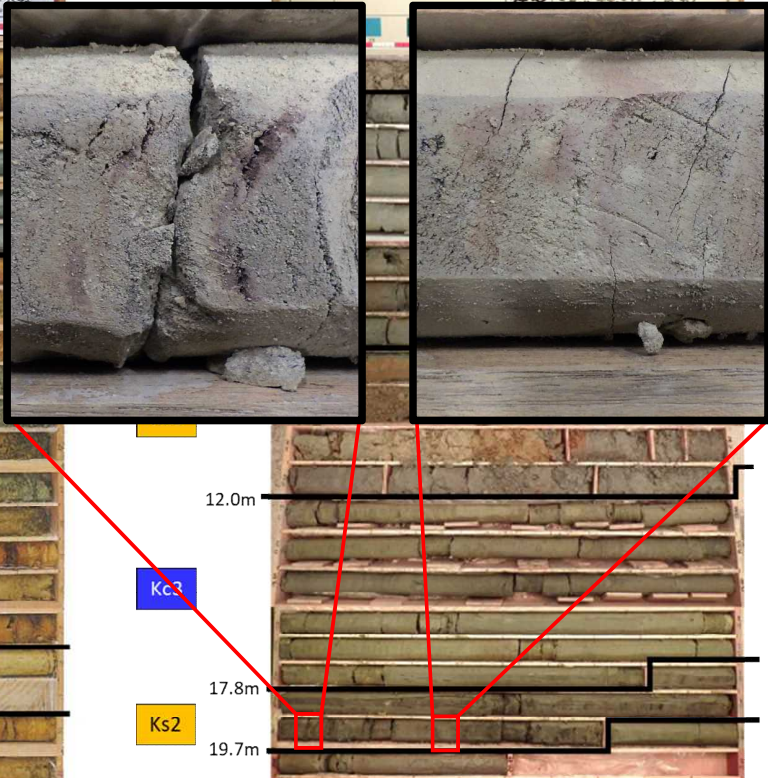
No.3-1



H26-S2



黒い成分も含まれるため目立たないが、鉄の酸化物が多いと考えられる赤色の濃い箇所も見られる。



※ 拡大写真は令和4年1月撮影

まとめ

- 地下水位はH26-S2地点付近で高く、旧処分場側に向かって下がっているため、旧処分場側が下流側と考えられる。
- 浸透水で検出されているほう素、1,4-ジオキサンがH26-S2地点では不検出となっている。
- H26-S2地点の電気伝導度は浸透水を大きく下回っている。

→以上の状況から、H26-S2地点の地下水は浸透水の影響をほとんど受けていないと考えられるため、環境基準を超過しているひ素は自然由来の可能性が高い。

- なお、ボーリングコアの色からもひ素を含んでいることの多い鉄の酸化物の色(赤)の濃い箇所が見られる。